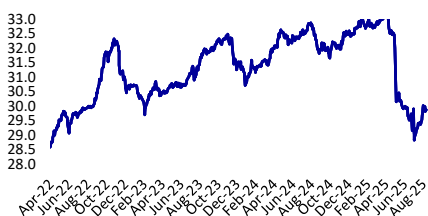
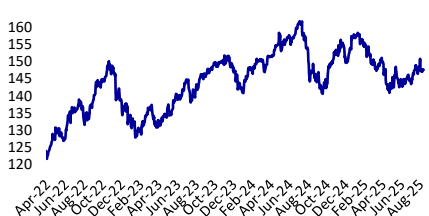


市場動向

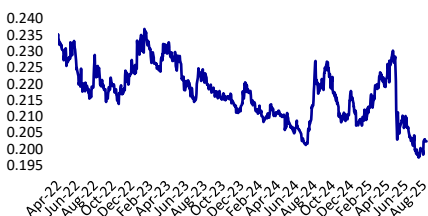
■USD/TWD



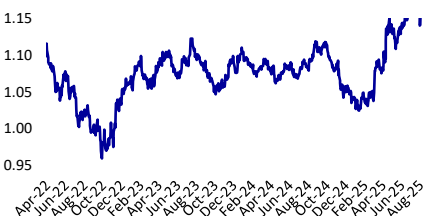
■USD/JPY



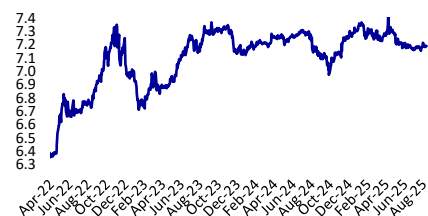
■JPY/TWD



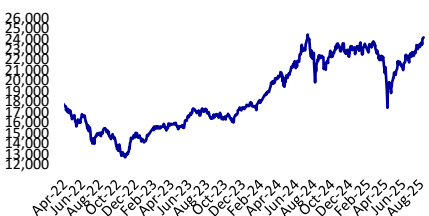
■EUR/USD



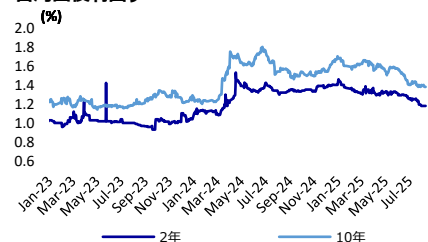
■USD/CNH



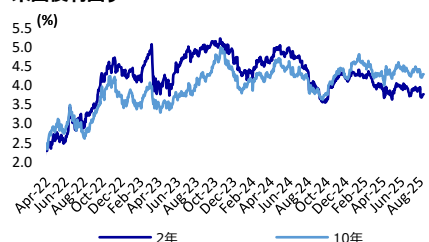
■台湾加権指数



■台湾國債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のUSD/TWDは下落。8/4、29.950でオープンした後、週末に発表された軟調な米雇用統計を受け、ドル全面安の展開。台湾ドルは一時29.812まで買われたが、ドルの押し目買いに入った。8/5、台湾加権指数が上昇したことを受け、台湾ドル高が先行になったが、米金利の反発により、29.927でクローズ。8/6、台湾株が軟調に推移する中、外資によるドル買いがやや優勢、29.990まで上昇。8/7、半導体に対する関税が発表され、影響が限定的になるとの見方が広がり、台湾株式市場は上昇。台湾ドルも一時29.712まで買われた。8/8、材料難の中、午後は外資による海外送金で、ドル買いがやや優勢。最終的には前週比0.6%ドル安台湾ドル高の30.025でクローズ。週間の外国人投資家の株式買い越し額は519.5億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のUSD/JPYは上昇。8/4、147.50でオープン後、米雇用統計後のドル安はやや一段落となる中、148円前後まで買い戻される局面もあったが、リスク選好が改善し株式市場が上昇したことから、147.33まで下落。8/5、前日の流れを引き継いだドル売り圧力が強く、一時146.62まで下落。その後は米国金利の上昇を受け、147円台後半まで上昇。8/6、主要経済指標の発表がなかったことを受け、先週発表された米国雇用統計が予想を下回ったことを受け、USD/JPYは147.38まで下落。8/7、半導体への関税100%賦課との報道がなされたことを受けてドル買い圧力が高まる中、147円台半ばまで上昇。しかしその後は林官房長官より15%上乗せ関税を否定する見解が示されるとドル売りに転じ、上げ幅を縮小。米国の新規失業保険申請件数が予想を上回ったことでドルが下落。8/8、日銀の7月会合では、インフレ圧力の高まりを指摘し、年末までに利上げを再開する可能性を示唆したが、米国金利の反発を受け、一時147.90までドル高となっていたが、最終的には前週比0.2%ドル高円安の147.76でクローズ。

■USD/TWD 予想レンジ：29.700-30.000

今週のUSD/TWDはレンジ推移となる予想。半導体関税の発表を受け、台湾株式市場は上昇。外国人投資家による大幅な買いが台湾ドルを支えた。しかし、台湾の関税は日本や韓国など主要競合国より高く、台湾ドルの下振れ圧力が続く可能性。USD/TWDはレンジ推移と予想。

■USD/JPY 予想レンジ：145.00-149.00

今週のUSD/JPYはレンジ推移となる予想。日本では最低賃金の引き上げによる実質賃金の年間伸び率が改善し、日本株の上昇に伴い、日銀の利上げによって円高が進む可能性。しかし、国内の政治リスクは依然として高く、市場の不確実性を高め、米国金利の反発により市場で売買いが交錯する可能性。

今週の予想

8/11 (MON)	
8/12 (TUE)	米7月CPI
8/13 (WED)	
8/14 (THU)	米7月PPI, ユーロ区Q2 GDP
8/15 (FRI)	米7月小売売上高/工業生産指数, 日Q2 GDP, 台湾Q2 GDP

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。